

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	ネットヨタ南海株式会社 貝塚店	階数	地上2F
建設地	大阪府貝塚市堤	構造	S造
用途地域	準工業地域、防火地域指定なし	平均居住人員	50 人
地域区分	6地域	年間使用時間	5,840 時間/年(想定値)
建物用途	物販店,工場,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2020年8月 予定	評価の実施日	2020年1月1日
敷地面積	5,569 m <sup>2</sup>	作成者	山本 盟
建築面積	2,311 m <sup>2</sup>	確認日	
延床面積	2,601 m <sup>2</sup>	確認者	



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.0** ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

☆☆☆☆☆ 30% ☆☆☆☆☆ 60% ☆☆☆☆☆ 80% ☆☆☆☆☆ 100% ☆☆☆☆☆ 100%超: ☆

標準計算

①参照値	100%
②建築物の取組み	91%
③上記+②以外の	91%
④上記+	91%

(kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>) 0 46 92 138

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q 環境品質** Qのスコア = 3.1

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.3

音環境	3.4
温熱環境	3.0
光・視環境	2.9
空気質環境	4.2

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.4

機能性	3.6
耐用性	3.2
対応性	3.6

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.7

生物環境	2.0
まちなみ	3.0
地域性・	3.0

**LR 環境負荷低減性** LRのスコア = 2.8

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 2.4

建物外皮の	1.0
自然エネ	3.0
設備システ	2.5
効率的	3.0

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.0

水資源	3.4
非再生材料の	2.8
汚染物質	3.0

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.3

地球温暖化	3.3
地域環境	3.3
周辺環境	3.2

3 設計上の配慮事項		
総合	耐久性の高い材料を選定し、更新間隔が長くなるよう配慮した。	その他 特になし
Q1 室内環境	内装材料のほぼ全面にF☆☆☆☆を採用し、室内環境の快適性に考慮した。	Q3 室外環境(敷地内) 緑地を設けることにより、良好な景観を形成した。
LR1 エネルギー	ビル用マルチエアコン、LED照明を採用することにより、設備システムの高効率化に努めた。	LR3 敷地外環境 光害対策のチェックリストの過半を満たすことにより、光害の抑制に努めた。
Q2 サービス性能	売場は、高い天井とカーテンウォールにより、開放的な空間とした。	
LR2 資源・マテリアル	自動水栓、節水型便器を採用し、水資源の保護に配慮した。	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

# 大阪府建築物環境配慮評価システム2018年版 大阪府の重点評価(結果)

受付番号

R2-変-0012

Osakafu-新築・既存 2018V1.0

【建物概要】		建物名称	ネットヨタ南海株式会社 貝塚店					
		建設地	貝塚市堤					
		用途/区分	物販店 工場					
【評価結果】		CASBEE 総合評価					B+	
①	CO2削減					3		
②	みどり・ヒート アイランド対策					3		
③	建物の断熱性					1		
④	エネルギー削減					3		
⑤	自然エネルギー直接利用					—		
		再生可能エネルギー 利用施設の導入状況	太陽光発電	—	風力	—	地熱	—
			太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—
エネルギー消費量の報告						報告しない		
【評価項目】								
項目		評価内容				スコア	評価	
① CO2削減		CASBEE「LR3-1」のスコアによる評価				3.3	3	
② みどり・ヒートアイランド対策								
生物環境の保全と創出		CASBEE「Q3-1」のスコアによる評価				2.0	3	
敷地内温熱環境の向上		CASBEE「Q3-3. 2」のスコアによる評価				3.0		
温熱環境悪化の改善		CASBEE「LR3-2. 2」のスコアによる評価				3.0		
③ 建物外皮の熱負荷抑制		CASBEE「LR1-1」のスコアによる評価				1.0	1	
④ 設備システムの高効率化		CASBEE「LR1-3」のスコアによる評価				2.5	3	
⑤ 自然エネルギー利用		CASBEE「LR1-2」のスコアによる評価				3.0	—	
エネルギー消費の実態把握に努める		エネルギー消費量の実績を3年間報告する。				報告する 報告しない	報告しない	
その他								
		技術の名称			考慮事項			
先進的技術の導入								
特に配慮した事項		ビル用マルチエアコン、LED照明を採用することにより、設備システムの高効率化に努めた。						